実務経験のある教員による科目

こども学科

知の技術	小山内, 長沼, 西,	1
音楽Ⅰ	齊藤, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 荻原, 高梨, 児玉	3
音楽Ⅱ	宮澤, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 荻原, 高梨, 児玉	5
音楽Ⅲ	宮澤, 佐藤(良), 舘岡, 松山, 山口, 高梨	7
音楽Ⅳ	齊藤　淳子・宮澤多英子	9
図画工作	木谷　安憲	11
保育内容（人間関係）	岩﨑　桂子	13
保育内容（表現・音楽）	齊藤　淳子	15
保育内容（表現・造形）Ⅰ	木谷　安憲	17
子どもと人間関係	岩崎　桂子	19
子どもと表現	木谷安憲・齊藤淳子・宮澤多英子	21
初等教科教育法（音楽）	齊藤　淳子	23
初等教科教育法（図画工作）	木谷　安憲	25
道徳の指導法	一色　翼	27
社会的養護Ⅰ	西内　俊朗	29
社会的養護Ⅱ	西内　俊朗	31
保育原理	岩崎　桂子	33
教育実習指導（事前事後）（幼稚園）	小山内, 木谷, 西, 齊藤, 佐々木, 小林, 宮澤, 一色	35
教育実習Ⅰ（幼稚園）	こども学科専任教員	37
教育実習Ⅱ（幼稚園）	こども学科専任教員	39
教育実習指導（事前事後）（小学校）	木谷,長沼,西,木谷,小林,藤田,一色	41
教育実習Ⅰ（小学校）	こども学科専任教員	43
教育実習Ⅱ（小学校）	こども学科専任教員	45
保育実習指導Ⅰ（事前事後）	岩﨑, 小林, 宮澤, 藤田	47
保育実習指導Ⅱ（事前事後）	小山内, 齊藤, 佐藤, 西内,	49
保育実習Ⅰ（保育所）	こども学科専任教員	51
保育実習Ⅱ（施設）	こども学科専任教員	53
保育実習指導Ⅲ・Ⅳ（事前事後）	木谷, 西, 佐藤, 岩﨑, 小林, 宮澤, 西内, 藤田	55
保育実習Ⅲ（保育所）	こども学科専任教員	57
保育実習Ⅳ（施設）	こども学科専任教員	59
保育・教職実践演習（幼・小）	長沼, 西, 佐藤, 小林, 西内, 藤田, 一色	61

知の技術　～教員・保育士養成基礎講座～	小山内・長沼・西･川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を講義する。
・学生としての学びの技術を習得し、本学で履修する科目内容への理解を深める
・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力）を磨く

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　本学での学ぶ意義と授業形態、履修登録の方法を理解しよう
第 2 回	川短での学びの概要と各授業受講に指してのルールを知ろう（学生としての学び❶）
第 3 回	メディアセンターの機能、資料の探し方を知り活用しよう（学生としての学び❷）
第 4 回	ノート、レポートの書き方を身につけよう（学生としての学び❸）
第 5 回	ICT 活用の意義と注意事項を理解しよう（学生としての学び❹）
第 6 回	保育・教職課程学生としての情報活用の倫理を考えよう（SNS の利用、引用表記）（学生としての学び❺）
第 7 回	実習参加に際しての心構え、幼稚園の１日、日誌の基本を理解しよう（実習にむけての学び①）
第 8 回	地図、礼状等の書き方を身につけよう（実習にむけての学び②）
第 9 回	人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び③）
第 10 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び❻）
第 11 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び❼）
第 12 回	個人調書を書こう（実習にむけての学び④）
第 13 回	実習生としてのマナー、言葉遣い、オリエン電話のかけ方を理解しよう（実習にむけての学び⑤）
第 14 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び⑥）
第 15 回	まとめ―「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び❽）

予習・復習

・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

履修上の注意

本授業は本学での学びの基礎となる事項であり、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、すべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保管すること。

さらに、1年次後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後）」は、本授業の内容を修得済であることを前提に進められるので、実習参加予定者は特に注意が必要である。

また、5回・10回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻・早退３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

2年間の学生生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナー、および社会人としての基本的なスキルを身につける。
上記を踏まえ、具体的には以下5項目の知識や資質・能力の習得を目指す。
①スタディスキル（ノートテイキング、発言、グループ内での協働、講義内容の理解、ならびに期限内に課題提出ができる）
②スチューデントスキル（メールや電話、手紙等を使って、マナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる）
③文章表現の基礎力（正しい漢字・文法により的確な文章作成ができる）
④情報リテラシー（メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる）
⑤保育・教育実践の基礎力（保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる）

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スタディスキル（20%）	ノートテイキング協働あのに課提内分ノート発内極す期れ、理われて言、でて内講がてテ的べ限解、がさの行る。	ノートテイキング協り題出義れ言、でのお課提講されてのにね解発内きて内概理、がる。プでべ限、がる容い	ノートテイキング協働、がさ内てて発内極求のにね解一ノグ、プ積が課提講さノグ、プに性す期れ、容いテ言で性めら主れる。	期れ講のあはさの図で題出層意要課提一・必のに、容がね内が、内解概限た義理る。	期れ義理あが出出講のでの提提す、図分課内お容がにら・不十題限て内解る。
スチューデントスキル（20%）	メール手紙等適踏く相談をな・相絡る。	電話、ナ報談やを定ま絡る。メール手紙等一踏連きを・でて一告が	電話、っマナ滞連きやを告談一の必メール等報相、・がナめる深メ手て絡るマ	電話、でな・をが電活用り絡度要やを、・るるメール等が告すす紙る報談得手きく相習あ	相理と切キ必絡・をく適スる告のし、一用習あ報談解もにル要・連要少すす得る。
文章表現の基礎力（20%）	文的が字・、成漢っ章使文る。正法確でしをなき	文他るで字・、きが漢っ解作い使理のしをが章る。者文き	きはし・努で成正字にあ解作のが、漢用が理が章る法、使要者文き量る他るでい語める。	が章者文る文習る。他るきいのれてきでし字らじで成正漢めう解作、・求羊理をが法が	できすよ・求成お法が解作で、文得理をル、い習る。者文ス正字らが章キしのられ他るるび漢め
情報リテラシー（20%）	タネしをな択モ活でンー用報切選センタ活情適捨で、てがアンをな、取え則こディイ等様しをうにるメデ、ト多集報たルする。メーッて収情しラ用き	タネしをルすンー用報ラ用きセタ活情モ活でアンをな、てがディイ等様しっとメデ、ト多集則こメーッて収にる。	タネしを、のあンー用報がへでセタ活情るル要アンをなきラ必ディイ等様でモがメデ、ト多集報解メーッて収情理る。	タネでなるるンー用要すすセタ活必集得る。アンを、収習あディイ等がをがメデ、トる報法要メーッき情方必	タネにをがンー切法要センタ適方必アンをるるディイ等すすメデ、ト用解る。メーッ活理あ
保育・教育実践の基礎力（20%）	記分本魅技ー察・十基、実テき観本しえ保ゼがて育ンでの基解まにレンの理路的プョンる。保録にを力のシる。	記解沿のシ察・理に技一る。観本一育ンでき察をマ実テき育の基テ保ゼがたレン保録しっプョ	記ねるまの察・概る踏技しキ要観本て本育理るがを実解ス必育の基し基保をす得保育の解、た法践習る。保録理がえ方実のあ	記判提育ン、わ察・をの保ゼの、行観解課たプョかった。育の理るまのシれかっ保録断出実テいずな	記判提育ンどな察・をの保ゼのれ観解課よプョン行育のす、技一ららっも保録断出実テちか

評価方法

漢字テストおよび課題レポート　50%
授業時の提出物　30%
発表　20%

テキスト

・教科書名：【改訂2版】これだけは知っておきたい 保育の基本用語(漢字練習シート付)
・著者名：長島和代（編）　石丸るみ・亀﨑美沙子・木内英実（著）
・出版社名：わかば社
・出版年：2021年
＊『実習のてびき』『履修のてびき』（他に、必要に応じて資料を配布する）

音楽Ⅰ

～保育・教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～

齊藤,児玉,佐藤(千),佐藤(良),
高梨,舘岡,萩原

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	－	選択必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員・保育者として，子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の育成を目指す。受講者を2グループに分け，クラス授業（45分）とピアノの個人レッスン（45分）を並行して行う。クラス授業では，音楽の基礎的な理論（楽典）とピアノ伴奏のための基礎演習，コード伴奏法などについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは，教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌（実習曲）を必修課題とし，ハ長調のコード伴奏を中心に，子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，童謡の歌唱及びリズム唱	個人レッスン
第 2 回	ピアノの演奏の基礎①・楽典①（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 3 回	Ⅰ・V_7 の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典②	個人レッスン
第 4 回	ピアノ演奏の基礎②・楽典③（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 5 回	ピアノ演奏の基礎③・楽典④（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 6 回	ピアノ演奏の基礎④・楽典⑤（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 7 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7 の全調課題試験①（ピアノ演奏の基礎）	個人レッスン
第 8 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7の全調課題試験②（ピアノ演奏の基礎），楽典⑥	個人レッスン
第 9 回	Ⅰ・Ⅴの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典⑦	個人レッスン
第 10 回	ピアノ演奏の基礎⑤・楽典⑧（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 11 回	ピアノ演奏の基礎⑥・楽典⑨（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 12 回	ピアノ演奏の基礎⑦・楽典⑩（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 13 回	ピアノ演奏の基礎⑧・楽典⑫（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 14 回	「メリーさんの羊」Ⅰ・Ⅴの全調課題試験及び楽典のまとめ	個人レッスン
第 15 回	楽典試験	個人レッスン

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いですので，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいと思いましょう。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，かなり難しい内容もありますので，授業内で理解できない場合は積極的に質問し，しっかりと理解できるよう努めること。

履修上の注意

・卒業必修科目及び保育士資格取得の必修科目である。
・クラス授業は音楽室，個人レッスンはレッスン室でグループレッスンを行う。
・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかしか出席していない場合は欠席扱いとなるので注意すること。また，遅刻３回で１欠席扱いとするとともに，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること（飲食厳禁など遵守事項を守る）。

到 達 目 標

・音楽に関する基礎的な知識を理解する。
・教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける。
・子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ピアノの技能① 全調課題Ⅰ・V_7 (10%)	どの調もスムーズに，音楽的に表現しながら弾くことできる。	どの調もスムーズに弾くことができる。	弾き始めるまでに考える時間が長く，時々躓くが最後まで弾くことはできる。	躓きながら弾くことはできるが，間違いが多く，曲として成立していない。	全調課題の意味が理解できていないため，全く弾くことができない。
ピアノの技能② 全調課題Ⅰ・Ⅴ (10%)					
ピアノの技能③ 弾き歌い (30%)	オリジナル伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともに音楽的に工夫をしながら表現することができている。	コード伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともにしっかり演奏することができ，所々，工夫することができる。	所々，躓くが，コード伴奏による弾き歌いができている。歌声はか細く，伴奏に消されることがある。	コード伴奏による弾き歌いは躓きがかなり多く，途中から歌が消え，ピアノのみの演奏になっている。	コード伴奏で弾いているが躓きが非常に多く，曲の流れが止まる。弾き歌いの意味が理解できていない。
楽典の理解度 (30%)	内容をしっかりと理解できており，困っている人が理解できるよう解説することができる。	説明内容をほぼ全て理解できている。	説明を聞いてすぐは理解できているが，時間が経つとあやふやになっている。	小学校音楽で学んできた内容の振り返りは理解できているが，調などの難しい内容の理解は不足している。	音符を読むことができず，小学校音楽で学んできた内容の振り返りも理解できていない。
学習意欲 (20%)	必修課題は早々に終わらせ，積極的にレパートリーを増やしている。課題は期日内に全て提出している。	必修課題はただ弾くだけでなく，伴奏の方法や表現の工夫をしている。課題は期日内に全て提出している。	期日までに必修課題を終わらせることはできたが，期日ギリギリである。課題は概ね期日内に提出している。	期日までに終わらなかった必修課題が２～３曲ある。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	期日までに終わっていない必修課題が 1/3 以上ある。未提出の課題がある。

評価方法

・実技試験（全調課題(2 回)各 10%・期末実技試験 30%） ・楽典試験（30%） ・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育のためのやさしい子どもの歌 －弾き歌い・合奏・連弾・合唱－』
・著 者 名：有村さやか・今泉明美・望月たけ美 編著 ・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2023 年（9784623094714）
※入学前配布資料も持参すること
※配布された資料を保存するためのスクラップブック等を準備すること。ただし，クリアファイルは不可。

音楽Ⅱ　～保育・教育現場における音楽活動実践力の育成～	宮澤, 児玉, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 萩原

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

子どもが楽しめる音楽あそびや歌唱表現活動を実践するために必要な音楽の基礎的な知識や演奏法や表現法を指導します。「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施します。

クラス授業は、保育現場や小学校での音楽活動実践や中学校・高等学校の音楽科教員としての実務経験に基づいて、保育・教育現場を想定した指導を行います。音楽の基礎的な理論は、必修曲の「子どものうた」に関連付け、実際に演奏しながら学ぶことで生きた音楽の知識を身に付けます。また、歌唱や合唱発表を通して、楽曲のよさや美しさを生かした歌唱表現や身体表現、舞台発表の工夫について協働的に学びます。

ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で扱われる頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた」を必修課題とし、コード伴奏法を含めて、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付けます。また、音楽表現の幅を広げるため、選択曲として個々のレベルに応じた「子どものうた」の弾き歌いやピアノ曲の演奏にも取り組みます。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、歌唱①音取り（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（夏休みの課題）
第 2 回	歌唱②呼吸と発声の基礎（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 3 回	歌唱③音楽表現の工夫（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 4 回	歌唱④身体表現の考案（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 5 回	【大学祭合唱発表（リハーサル・本番）】	
第 6 回	歌唱⑤「子どもの歌」歌唱表現法（必修曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 7 回	【中間実技試験】「生活の歌」弾き歌い	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 8 回	楽典・ソルフェージュ①リズムと旋律	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 9 回	楽典・ソルフェージュ②和音の響きとコードの種類	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 10 回	楽典・ソルフェージュ③音楽を形づくっている要素	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 11 回	楽典・ソルフェージュ④拍の流れとリズム	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 12 回	楽典・ソルフェージュ⑤音階の仕組みと調	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 13 回	楽典・ソルフェージュ⑥コード伴奏のアレンジ法	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 14 回	【ソルフェージュ試験】音名唱、リズム唱	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 15 回	個人レッスン（必修曲・選択曲）／　期末実技試験リハーサル（「子どもの歌」弾き歌い）	

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回の授業までに毎日15分以上練習しましょう。
・復習：既習曲を週2回程度練習し、自分自身のレパートリーとしていつでも弾ける状態に維持しましょう。
　　楽典やソルフェージュ（音名唱・リズム唱）等、クラス授業で学んだ内容も必ず復習しましょう。

履修上の注意

・卒業必修科目であるため、こども学科の学生は全員履修します。
・遅刻は3回で1回欠席とします。授業開始後20分以降は欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業では、【大学祭合唱発表（リハーサル・本番)】【ソルフェージュ試験】を、ピアノの個人レッスンでは「夏休みの課題」「生活の歌（実習曲)」「必修曲」の合格を必須とします。

到 達 目 標

・保育者、教員になるための音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
・楽曲のよさや美しさを感じ取り、子どもの音楽活動にふさわしい表現を工夫しながら歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら、弾き歌いができる。	音楽の流れが大きく止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
ソルフェージュ能力（20%）	常に一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ほぼ一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをほぼ正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをおおむね正確に伝えることができる。	テンポが崩れる箇所が所々あり、全体の半分以上の音程やリズムを正確に伝えることができない。
音楽の基礎知識の理解（10%）	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解し、課題の記述内容も模範的な水準である。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解が不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解ができていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・ソルフェージュ試験 20%（音名唱 10%、リズム唱 10%）…【評価項目】ソルフェージュ能力
・個人レッスン待機課題 10% …【評価項目】音楽の基礎知識の理解

テキスト

・「音楽Ⅰ」に引き続き『保育のための やさしい子どもの歌』を教科書として使用します。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践のための基礎力を身に付ける 音楽Ⅱ』を初回の授業で配布します。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意してください。

音楽Ⅲ　～保育・教育現場における音楽活動実践力の育成～	宮澤, 佐藤(良), 高梨, 舘岡, 松山, 山口

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	選択	－	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを 45 分交代で実施します。「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、保育者・小学校教員に必要な音楽活動実践力を育成します。

クラス授業は、保育現場や小学校での音楽活動実践や中学校・高等学校の音楽科教員としての実務経験に基づいて、常に保育・教育現場を想定しながら、歌唱やピアノ、ミュージックベルの実技と指導法や、責任実習を想定した音楽あそびや音楽授業の模擬実習、音楽の基礎的な理論を指導します。歌唱では主に音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、集団で歌ったり遊んだりする体験を通して、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたのよさや楽しさを味わい、音楽的特徴を生かした指導法について学びます。音楽の基礎的な理論では、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ音楽の基礎知識を生かし、楽譜作成ソフトを用いた記譜法を身に付けます。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲、「季節のうた」の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げ、ふさわしい音楽表現を創意工夫しながら、ピアノ演奏の技能を高めます。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、「自己紹介の歌」づくり	個人レッスン（春休み課題）
第 2 回	弾き歌い①実習に向けたピアノ伴奏法（6 月の歌）	個人レッスン（マーチ）
第 3 回	弾き歌い②楽曲の特徴を生かした指導法（春の歌）	個人レッスン（マーチ）
第 4 回	弾き歌い③楽曲の特徴を生かした指導法（夏の歌）	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 5 回	わらべうた遊び①「わらべうた」の音楽的特徴	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 6 回	わらべうた遊び②伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 7 回	わらべうた遊び③伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 8 回	【中間実技試験】「6 月の歌」弾き歌い	【中間実技試験】「マーチ」のピアノ演奏
第 9 回	【模擬実習】音楽遊び・音楽授業の発表と体験	個人レッスン（芸術曲）
第 10 回	弾き歌い④楽曲の特徴を生かした演奏法（秋の歌）	個人レッスン（芸術曲）
第 11 回	弾き歌い⑤楽曲の特徴を生かした演奏法（冬の歌）	個人レッスン（芸術曲）
第 12 回	【前後半クラス合同授業】楽譜作成ソフトを用いた記譜法　※ICT の活用	
第 13 回	ミュージックベル①基本奏法、「チャイム」づくり	個人レッスン（芸術曲）
第 14 回	ミュージックベル②指導法、楽曲のグループ発表	個人レッスン（芸術曲）
第 15 回	個人レッスン（芸術曲）　／　期末実技試験リハーサル（芸術曲のピアノ演奏）	

予 習 ・ 復 習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回の授業までに毎日 15 分以上練習しましょう。

・復習：既習曲を週 2 回程度練習し、自分自身のレパートリーとして常に弾ける状態に維持しましょう。

履修上の注意

・実習派遣に関わる科目であるため、幼稚園教諭免許および保育士資格取得予定者は履修してください。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなりますので注意してください。

到 達 目 標

・保育者、小学校教員に必要なの音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・楽曲のよさや美しさなどを感じ取り、楽曲のイメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して弾き歌いやピアノ演奏をすることができる。
・幼児の音楽あそびや小学校低学年の音楽科授業を計画し、模擬実習として実践することができる。
・記譜法の基礎を理解し、ピアノ伴奏譜を作成することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いがやピアノ演奏できる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
音楽活動の計画・実践力（20%）	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や様々な配慮がみられ、模範的な水準である。	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や配慮がみられる。	教育実習での音楽活動を想定した指導案をおおむね的確に作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮がやや不足している。	教育実習での音楽活動を想定し、自分なりに指導案を作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮が不足している。	教育実習での音楽活動を想定していない不十分な指導案で、発表においても子どもの興味を引き出す工夫や配慮がみられない。
記譜法の理解（10%）	記譜法の基礎だけでなく、応用的な内容も自主的に学び理解している。	音楽の基礎的な知識を活用し、記譜法を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないが、記譜法をおおむね理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないため、記譜法の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識が定着しておらず、記譜法が理解できていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・模擬実習 20%（発表 10%、音楽活動の指導案 10%）…【評価項目】音楽活動の計画・実践力
・課題 10%（楽譜作成ソフト課題 10%）…【評価項目】記譜法の理解

テキスト

・教科書は「音楽Ⅱ」に引き続き、『保育ためのやさしい子どもの歌』を使用する。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践力を身に付ける 音楽Ⅲ』を初回の授業で配布する。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅳ　～保育・教育編場における実践力及び指導力を身に付ける～	齊藤, 宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	選択	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが，第 8 回までは合同授業と個人レッスンを，第 9 回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し，実践法や指導法を身に付けられるよう，全ての回について小・中・高等学校教員の実務経験を活かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，音色の違いに注目したクラッピングによるアンサンブル	
第 2 回	歌によるコミュニケーション①（斉唱と合唱「わらべうた」，交互唱「よろこびのうた」①）	
第 3 回	歌によるコミュニケーション②（交互唱「よろこびのうた」② 他）	個人レッスン①
第 4 回	初見演奏①，歌に合わせたリズム遊び	個人レッスン②
第 5 回	初見演奏②，ボディパーカッションとピアノによるアンサンブル	個人レッスン③
第 6 回	初見演奏③，保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン④
第 7 回	初見演奏④，器楽合奏に向けて	個人レッスン⑤
第 8 回	中間実技試験	個人レッスン⑥
第 9 回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けた練習方法について	
第 10 回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏を進めるために必要なことについて	
第 11 回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第 12 回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第 13 回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第 14 回	楽譜作成ソフトの活用（ピアノ伴奏の編曲・作成した楽譜の実演「楽器のお名前なぁに？」）	個人レッスン⑦（連弾）
第 15 回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて	個人レッスン⑧（連弾）

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが，音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず，授業者がレッスンを行うため，これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため，短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また，履修者数によっては個人レッスンが受けられない日もあるが，その場合は個人練習をしっかり行うこと。さらに，連弾・重奏は一人で行うものではないため，積極的にペアやグループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお，履修希望者が多く定員に達した場合は，履修届の先着順とする。

また，遅刻3回で1欠席扱いとするとともに，30分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

就職後の音楽活動について，柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫 （中間・期末試験） （40%）	楽曲に相応しく，且つオリジナル性の高いアレンジや表現の工夫を考えることができる。	楽曲に相応しいアレンジや表現の工夫を考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることはできないが，アドバイスをもとに考えることができる。	アレンジや表現の工夫をすることができない。
表現の技能 （中間・期末試験） （20%）	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながら，完成度の高い演奏をすることができる。	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながらスムーズに演奏することができる。	自分で考えたアレンジなどを表現することはできるが，所々，躓くため，音楽の流れがやや止まる。	アドバイスを受けて考えた表現をしようとするが，躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
保育者として必要な支援方法の理解 （20%）	保育者として必要な支援方法を理解し，上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	保育者として必要な支援方法を理解し，どのような声掛けが必要かを考えることができる。	保育者として必要な支援方法は理解しているが，具体的な声掛けや手段を考えるまでには至っていない。	保育者として必要な支援方法をあまり理解しておらず，具体的な声掛けや手段を考えることができない。	保育者として必要な支援方法を全く理解しておらず，具体的に考えることができない。
学習意欲 （20%）	レパートリーを増やすなど自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定することはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	自主的に課題を設定することができず，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	自主的に課題を設定せず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

・実技試験（中間実技試験（個人）・期末実技試験（連弾・重奏） 60%）
・保育者としての支援方法の理解（様々な活動の様子の観察）（20%）
・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
・その他，適宜，資料を配布する（A4サイズのスクラップブックやフラットファイルなどを準備すること）

図画工作　～子どもによりそう造形表現活動の実践～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	必修	－	選択	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼児期にふさわしい様々な造形表現活動を実際に行い、子どもの気持ちによりそい、その感性を育むとともに、深い学びを導くことのできる保育者となることを目指す。素材の変化を楽しみ自己表現を育てる。乳幼児期の感覚を追体験し、驚きや喜びを子どもと分かち合えるような活動について、高等学校美術科の実務経験に基づき、具体的に考える指導をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス・「なぐりがきで描いてみよう」
第 2 回	「お面づくり１」園で遊ぶためのお面の構想
第 3 回	「お面づくり２」園で遊ぶためのお面の制作
第 4 回	「お面づくり３」園で遊ぶためのお面の制作・完成
第 5 回	「絵具あそび」（ローラー・スタンピング）
第 6 回	「ねんど遊び１」半立体的な作品の粘土での制作
第 7 回	「ねんど遊び２」立体的な作品の粘土での制作
第 8 回	ポートフォリオ制作
第 9 回	「お菓子の箱でつくろう」空き箱による立体物の制作
第 10 回	「線で遊ぶ」
第 11 回	「紙コップで遊ぶ」
第 12 回	「といかけことば」卒業後、園で行うことのできる言葉遊び　構想
第 13 回	「といかけことば」絵入り説明シート作成
第 14 回	「といかけことば」発表
第 15 回	ポートフォリオ制作・まとめ

予習・復習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

造形活動を楽しみ、指導の計画を立てることができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現し、子どもの気持ちを想像できるようになる。
指導者の立場で活動を考え、実践する準備ができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

テスト（筆記と発表）：４0%
提出物：４0%
授業態度：20%

テキスト

・教科書名：ずこうことばでかんがえる（新装版）
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4990759667）
※１年次に使用したもの

保育内容(人間関係)　～子どもと保育者でつくる人間関係～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の映像資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように指導する。保育士の実務経験に基づき、それを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を指導する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第 2 回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第 3 回	保育における「人間関係」を学ぶ-領域「人間関係」-
第 4 回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第 5 回	新入園児と保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 6 回	遊びを支える保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 7 回	こどもが遊びに夢中になるになる人間関係-グループで事例検討-
第 8 回	こどもの一人遊びを捉える-グループで事例検討-
第 9 回	こどもの創造性を支える人間関係-グループで事例検討-
第 10 回	一人のこどもと関わる保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 11 回	年齢別のこどものケンカの意味を探る-グループで事例検討-
第 12 回	見せる保育とは？-グループで事例検討-
第 13 回	行事に向けたこどもと保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 14 回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第 15 回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

履修上の注意

・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
・グループワークでは、グループ内での積極性を重要視する。
・テキストは、「子どもと人間関係」と同じものを使用する。

到 達 目 標

・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（10%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解出来る。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容について理解出来ていない。
課題解決能力（30%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題を解くことができる。	自身の力で課題を解くことができる。	教科書や他者の意見を参考にすれば課題を解くことができる。	他者からアドバイスを受けることで課題を解くことができる。	他者のアドバイスや教科書があっても課題を解決する事ができない。
課題を文章で説明する力（レポート）（60%）	他者を説得する内容が記述する事ができる。	論理が通った説明文を記述する事ができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。

評価方法

学期末試験（レポート）60%　　授業内グループワーク 30%　　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年　978-4-909378-51-4

保育内容(表現・音楽) ～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～	齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について，『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・経験的に理解を深めるとともに，その指導法を修得できるようにする。また，子どもの学びの連続性を確保するためには保幼小連携の視点が大切となる。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして保幼小連携の在り方についても考える。楽器の奏法や歌唱，創作活動，舞台発表については，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，楽器で奏でる①～太鼓あそび及び太鼓の基本奏法，声で奏でる①わらべうたあそび～
第 2 回	楽器で奏でる②～長胴太鼓と小締太鼓でアンサンブルをつくろう（創作お囃子）～
第 3 回	楽器で奏でる③～創作お囃子の「なか」の部分を完成させよう～
第 4 回	楽器で奏でる④～創作お囃子を練る～
第 5 回	楽器で奏でる⑤～創作お囃子を完成させる～
第 6 回	舞台発表のリハーサル及び本番（舞台セッティング・演奏・舞台撤去等の体験）
第 7 回	舞台発表の振り返り，世界の音楽教育メソッドを知る，手で奏でる・身体で奏でる①～手あそび～
第 8 回	手で奏でる・身体で奏でる②～手話の歌・リトミック～
第 9 回	声で奏でる②～童謡をア・カペラで 100 曲演習～
第 10 回	楽器で奏でる⑥～様々な打楽器の音を聴き，基本奏法を知ろう～
第 11 回	身近な素材で奏でる①～身の回りの音素材探し（ICT の活用を含む）～
第 12 回	身近な素材で奏でる②～身の回りの音から音楽へ（ICT の活用を含む）～
第 13 回	絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え，絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 14 回	絵本と音楽～好きな絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 15 回	絵本に音・音楽をつけながら読み聞かせの発表をしよう

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。

・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるよう，継続して練習すること。さらに，理論については難しい内容もあるため，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
・グループやペアなど仲間と協力して活動を進めること。
・積極的に様々な音楽表現を経験すること。
・遅刻 3 回で 1 欠席扱いとする。また，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
・子どもの歌 100 曲をア・カペラで歌うことができる能力，幼児が親しみやすい打楽器の奏法技能，即興表現の能力，音・音楽づくり(創作)能力を修得する。
・想像力と創造力を伸ばす。
・世界の音楽教育メソッドについて理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
器楽表現の技能（期末試験）（30%）	楽器の奏法を理解し，自由に演奏することができる。	楽器の奏法を理解し，演奏することができる。	楽器の奏法は理解しているが，上手く演奏することはできない。	楽器の奏法を理解しているものもあるが，自己流のものもあり上手く演奏することができない。	楽器の奏法は全く理解しておらず，自己流で音を鳴らすことしかできない。
歌唱表現の技能（期末試験）（10%）	指定数以上の曲を覚え，どの曲も正しく歌うだけでなく，イメージなども考え表現することができる。	指定数の曲を覚え，どの曲も正しい音程・リズムで歌うことができる。	指定数の曲を覚え，歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	指定数の曲を覚えたが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	指定数の曲を覚えておらず，元々知っている曲以外は歌うことができない。
表現の創意工夫（絵本と音楽による表現発表）（20%）	日頃から日常に溢れる音を意識して聴き，音楽表現や保育の中でどのように生かすことができるかを考え，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持ち，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持つことはできるが，創作活動に生かすことはあまりできない。	身の回りの音にあまり関心を持つことができず，創作活動に生かすことはほぼできない。	身の回りの音に全く関心がなく，自分で考えて創作活動をすることができない。
音楽教育についての理解度（レポート）（20%）	世界の様々な音楽教育に関心を持ち，その内容を十分に理解した上で，保育にどのように生かすことができるかを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，内容を理解し，保育との繋がりを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，大まかな内容は理解しているが，保育との繋がりを考えることはあまりできない。	世界には様々な音楽教育があることは理解しているが，内容及び保育との繋がりに関する理解は乏しい。	世界の音楽教育に関心がなく，保育との繋がりがあることを理解することができない。
学習意欲（20%）	グループ活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められても，ほとんど何も発言することがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

期末実技試験（40%），絵本と音楽による表現発表（20%），レポート（20%），学習態度・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育者のための表現あそび　－音楽・身体・造形のアイディアー』
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-909655-70-7）
※その他，適宜，資料を配布する（A4 サイズのスクラップブックやフラットファイルなどを準備すること）

保育内容(表現･造形) Ⅰ ～子どもに関わる造形表現の基礎～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	必須	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。そのために、自分が表現するだけではなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、高等学校美術科の実務経験に基づき、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業スケジュールと材料・用具の説明(情報機器及び教材の活用を含む)
第 2 回	色紙を使った「自分の名前デザイン」
第 3 回	色彩表現Ⅰ 色の三原色を使った色彩あそび
第 4 回	色彩表現II 色の三原色と白・黒を使った色彩あそび
第 5 回	色彩表現III 色の三原色を使った絵画あそび
第 6 回	色紙と絵具を使った絵画遊び
第 7 回	幼稚園教育要領について
第 8 回	絵の活動を考えるⅠ 幼稚園でできる絵画の制作
第 9 回	絵の活動を考えるII 幼稚園での絵画活動 導入のプレゼンテーション
第10回	絵の活動を考えるIII クラス単位での模擬授業
第11回	絵の活動を考えるIV クラス単位での壁面装飾風共同制作
第12回	絵画制作 ごしごしあそび かたつむりを描く
第13回	絵画制作 どこから描いたらいいのあそび
第14回	絵画制作 こすりだしあそび フロッタージュなどの技法習得
第15回	おなまえ絵本制作

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

造形活動を楽しむことができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
指導者の立場で活動を考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

テスト（筆記と発表）：４0%
提出物：４0%
授業態度：20%

テキスト

・教科書名：ずこうことばでこたえましょう
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4990759674）
※「こどもと表現」でも使用しているもの

子どもと人間関係　～子どもにとっての人間関係～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解できるように講義する。保育士の実務経験に基づいて、適時DVDの視聴、事例を通して子どもの育ちの姿について講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	現代社会と人間関係－こどもを取り巻く人間関係・社会システムとの関係について－
第 2 回	現代のこどもを取り巻く影響と人間関係－保護者、家族、地域と人間関係について－
第 3 回	保育・幼児教育の基本－保育とは何か？領域「人間関係」について－
第 4 回	乳幼児の「人間関係」－子どもの発達と「人間関係」・他の領域との関係について－
第 5 回	乳児保育の視点－乳児の発達、「人間関係」とのつながりについて－
第 6 回	1歳以上3歳未満児の「人間関係」－1歳以上3歳未満児の発達、領域とのつながりについて－
第 7 回	3歳以上の「人間関係」－3歳以上の発達、「人間関係」のねらいと内容について－
第 8 回	領域「人間関係」と10の姿－自立、協同、道徳・模範意識、社会性のつながりについて－
第 9 回	様々な人との「人間関係」－異年齢児との関わり、生活、遊びの中での人間関係について－
第10回	幼保小の接続－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「資質・能力」について－
第11回	保育者としての「人間関係」での援助－個々のこどもの育ち、集団と人間関係ついて－
第12回	領域「人間関係」と指導計画－乳幼児の各年齢における指導計画－
第13回	多文化保育－多文化、異文化と「人間関係」について－
第14回	支援を必要とするこども－困難を伴う保育、障がいのあるこどもの保育－
第15回	まとめ－遊びと「人間関係」の指導計画の立て方－

予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：授業内容をまとめ、専門用語を覚える。

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・進歩状況により授業内容が変更する可能性がある。

到 達 目 標

① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
② 幼児期の遊びやの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足はある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解が出来ていない。
文章で説明する力（レポート）（50%）	他者を説得する内容が記述できる。	論理が通った説明分を記述することができる。	不足する点があるが説明文を書くことができる	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。
受講態度（20%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題に取り組むことが出来る。	自身の力で課題を解くことができる。	積極的に授業に参加し授業内の課題に取り組むことが出来る。	授業内の課題に積極的に取り組み問題解決できる。	授業内容を理解した上で積極的に課題を解決できる。

評価方法

学期末試験（レポート）50%　　授業内課題 30%　　受講態度 20%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年　978-4-909378-51-4

子どもと表現 ～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～

木谷, 齊藤, 宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	−	−

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて、保育現場や小学校での表現活動実践や小・中・高等学校教員としての実務経験を生かして実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解
第 2 回	乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解(担当:宮澤※1) ※1 保育現場・小学校での表現活動実践や中・高等学校教員としての実務経験を生かした指導
第 3 回	イメージを音や声で表現する(担当:宮澤※1)
第 4 回	子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開(担当:宮澤※1)
第 5 回	豊かな音楽活動―音楽表現から総合的な表現への広がり―(担当:宮澤※1)
第 6 回	乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解(担当:木谷※2) ※2 保育現場・小学校での表現活動実践や高等学校教員としての実務経験を生かした指導
第 7 回	子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開(担当:木谷※2)
第 8 回	イメージを色や形で表現する(担当:木谷※2)
第 9 回	豊かな表現活動―造形表現から総合的な表現への広がり―(担当:木谷※2)
第 10 回	子どもの身体表現と身体的発達の理解(担当:齊藤※3) ※3 小・中学校教員としての実務経験を生かした指導
第 11 回	イメージを身体で表現する(担当:齊藤※3)
第 12 回	子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開(担当:齊藤※3)
第 13 回	豊かな表現活動―身体表現から総合的な表現への広がり―(担当:齊藤※3)
第 14 回	音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動
第 15 回	表現活動における ICT の活用と学習の総括

予習・復習

・予習：様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。

・復習：子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。

履修上の注意

・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
・遅刻 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・卒業必修科目及び幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目である。また、教育実習Ⅰの派遣科目である。

到 達 目 標

(1)子どもの表現の姿や、その発達を理解する。
(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの表現の姿や発達の理解（30%）	子どもの表現の姿や発達について十分に理解し、その内容から自らの気付きや考えを深めることができる。	子どもの表現の姿や発達について十分に理解している。	子どもの表現の姿や発達についておおむね理解している。	子どもの表現の姿や発達についての理解が不十分である。	子どもの表現の姿や発達について全く理解していない。
表現の基礎的な知識・技能を生かした思考力・表現力（30%）	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動においてイメージ豊かに思考･判断･表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において自分なりに思考･判断･表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において指導者のアドバイスをもとに思考･判断･表現することができる。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能と、表現活動における思考・判断・表現の結びつき付きがあやふやである。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能が定着しておらず、表現活動における思考･判断･表現も不十分である。
総合的な表現活動の考案力・発表力（40%）	幼児が表現を楽しみ、感性や創造性を育めるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	幼児が表現を楽しめるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分である。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分で、発表の説明も分かりにくい。	総合的な表現の活動の意味を理解せず、活動案の作成は不十分な上、発表で使用する教材・教具の準備も不十分で、説明も分かりにくい。

評価方法

・リフレクションシートの記述内容(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【子どもの表現の姿や発達の理解】
・授業における表現活動の過程と発表(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【表現の基礎的な知識技能を生かした思考力・表現力】
・総合的な表現活動の活動案と発表（40%)：期末試験　活動案 20%、発表 20%
…評価項目【総合的な表現活動の考察力・発表力】

テキスト

①音楽　　・教科書名：保育者養成のための子どもと音楽表現
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版
・出 版 年（ISBN)：2021 年（978-4910472270)
②造形　　・教科書名：ずこうことばでかんがえる
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：HH.A.B.
・出 版 年：(ISBN)：2022 年（978-4990759667)
③身体表現・教科書名：保育者のための表現あそび　－音楽・身体・造形のアイディアー
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN)：2023 年（978-4-909655-70-7)

初等教科教育法(音楽) ～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	選択必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校音楽科の目標や指導内容，指導計画，指導展開及び評価を含めた基礎的な理論，情報通信技術の活用について理解を深めるとともに，学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また，教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第 2 回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価，音楽教育主要用語について
第 3 回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第 4 回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 5 回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 6 回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 7 回	学習指導案の理解，ワークシートづくりについて
第 8 回	学習指導案の作成，ワークシートの作成
第 9 回	音楽教育史及び音楽史について
第 10 回	中間筆記試験（学習指導要領等，教員採用試験対策）及び解説
第 11 回	模擬授業①
第 12 回	模擬授業②
第 13 回	模擬授業③
第 14 回	模擬授業④
第 15 回	まとめ，音楽科における関連と連携

※教員採用試験の日程により，第 7 回～第 10 回の順番が入れ替わる場合があります

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。演習がある際は，必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。

・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し，内容の理解に努めましょう。特に前半は，教員採用試験対策も含まれています。

履修上の注意

・現場に出た際に，「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず，音楽専科がいない学校へ着任したり，自分が音楽専科になったりする可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので，意欲的に取り組みましょう。
・ソプラノリコーダー及び鍵盤ハーモニカを使用する予定です。
・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので，パソコンが苦手な人は，基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。
・遅刻 3 回で 1 欠席扱いとする。また，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容，指導計画，指導展開，評価等について理解した上で，学習指導案を作成し，授業を実践することができる力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
小学校学習指導要領(音楽)及び小学校音楽の学習内容に関する理解度 (中間・期末試験) (30%)	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をしっかりと理解しており，他の人に解説することができる。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をほぼ全て理解できている。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を理解できていないところがいくつかある。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容の理解が不足している。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を全く理解できていない。
歌唱共通教材の歌唱の能力 (中間・期末試験) (10%)	全ての歌唱共通教材を正しく歌うだけなく，曲のイメージなども考え表現することができる。	全ての歌唱共通教材を正しい音程・リズムで歌うことができる。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	低学年の歌唱共通教材や元々知っている曲以外は歌うことができない。
指導案立案及び模擬授業による実践力 (40%)	指導案はしっかりと練って立案し，板書計画や掲示物等の準備も十分に行った上で模擬授業をスムーズに行うことができる。	よく考えて指導案を立案し，模擬授業を行うことができる。	指導案を立案することはできるが，時々，指導案を見ながらでなければ模擬授業を行うことができない。	教師用指導書を参考にしながら指導案を立案しているが，指導案を見ながらでなければ模擬授業をおこなうことができない。	指導案は教師用指導書を丸写しのため授業の流れを把握しておらず，指導案を見ながらでも模擬授業を行うことができない。
学習態度 (10%)	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいつことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。
課題提出 (10%)	課題は全て期日内に提出している。	課題は遅れることなく提出している。	概ね期日内に課題を提出している。	課題を提出しているが，期日は守れていない。	未提出の課題がある。

評価方法

筆記試験（中間試験 15%，期末試験 15%），歌唱共通教材の歌唱実技試験（中間試験 5%，期末試験 5%），学習指導案立案・模擬授業の実践（40%），学習態度（10%），課題提出（10%）

テキスト

・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 －生成の原理による授業デザイン－』
・著者名：清村百合子・小島律子（監修） ・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
・出版年（ISBN）：2018 年（978-4-908255-74-8）
※その他，適宜，資料を配布する（専用のフラットファイル等を準備すること）

初等教科教育法(図画工作) ~図工で育てる思考力、判断力、表現力~

木谷　安憲

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	−	選択	−

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1 学年から 6 学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、高等学校美術科の実務経験に基づき、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス(受講者自身の振り返り：小学校時代の図工に関して)
第 2 回	図画工作科の目標および内容について理解する
第 3 回	第 1・2 学年の目標と内容について講義をする
第 4 回	第 1・2 学年の目標と内容についての演習を行う
第 5 回	第 3・4 学年の目標と内容について講義をする
第 6 回	第 3・4 学年の目標と内容についての演習を行う
第 7 回	第 5・6 学年の目標と内容について講義をする
第 8 回	第 5・6 学年の目標と内容についての演習を行う
第 9 回	模擬授業のための指導案を書く
第 10 回	模擬授業 1
第 11 回	模擬授業 2
第 12 回	模擬授業 3
第 13 回	模擬授業 4
第 14 回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第 15 回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。

・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。
遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［指導計画等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた指導計画等を作ることができる。	指導計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
判断力［指導計画、見本作品制作等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた、すぐれた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	指導計画、見本作品制作等を作成することができても、判断力の観点が抜けている。	判断力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(25%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (25%)	思考力、判断力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力のどれかを結びつけた実践を行うことができる。	実践を行うことができても、思考力、判断力、表現力が結びついていない。	思考力、判断力、表現力の観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品から、小学校教諭になる者としての思考力、判断力、表現力がどれくらいあるのか、上記の基準に照らしながら評価していく。(75%)
図工における総合的な力がどのくらい身についたか、上記の基準に照らしながら評価していく。(25%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年　(978-4536590112)

道徳の指導法　～「考え、議論する道徳」とは～	一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・道徳の意義や原理等を踏まえ、道徳教育、および、その要となる道徳科について具体的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付けられるよう指導する。
・小学校教諭としての実務経験に基づき、授業展開技術の理解と実践の向上を目指して指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	道徳の理論（1）道徳の本質（道徳とは何か）
第 2 回	道徳の理論（2）道徳教育の歴史
第 3 回	道徳の理論（3）現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）
第 4 回	道徳の理論（4）子どもの心の成長と道徳性の発達
第 5 回	道徳の理論（5）学習指導要領に示された道徳教育および道徳科の目標と主な内容
第 6 回	道徳の指導法（1）学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要となる道徳科
第 7 回	道徳の指導法（2）道徳教育の指導計画および教育活動全体を通じた指導
第 8 回	道徳の指導法（3）道徳科の特質を生かした多様な指導方法
第 9 回	道徳の指導法（4）道徳科の教材の特徴を踏まえた授業設計
第 10 回	道徳の指導法（5）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成①目標設定
第 11 回	道徳の指導法（6）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成②内容
第 12 回	道徳の指導法（7）道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方
第 13 回	道徳の指導法（8）模擬授業の実施と授業改善の視点①模擬授業の内容吟味
第 14 回	道徳の指導法（9）模擬授業の実施と授業改善の視点②他教科との関連
第 15 回	道徳の指導法（１０）模擬授業の実施と授業改善の視点③授業改善

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認すること。

履修上の注意

1．教育実習Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）である。
2．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
3．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
4．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
5．学期末試験は行わない。

到 達 目 標

・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、および、その要となる特別な教科道徳の目標や内容、指導計画等を理解する。
・「考え、議論する道徳」の理念を踏まえた実践的な指導力を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
道徳教育への理解と授業に対する取組（20%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
授業展開技術の理解（40%）	道徳の特質を理解したうえで綿密に教材研究が行われ、その内容が学習指導案に適切に反映されている。	道徳の特質を理解したうえで教材研究が行われ、その内容が学習指導案に反映されている。	道徳の特質の理解にやや不安があるものの、学習指導案の基本的な書き方を理解している。	学習指導案の書き方への理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組む。	学習指導案の書き方を理解することができず、作成することが難しい。
授業展開技術の実践（40%）	子どもの学びを促進するさまざまな工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られるが、指示の出し方や板書にやや課題がある。	子どもの学びを促進する工夫が必要であり、指示の出し方や板書にも課題がある。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。

評価方法

・課題への取組　80%
　※特に、「学習指導案作成」や「模擬授業」への取組を重視する。
・授業中の議論や発言等　20%。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：廣済堂あかつき
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

社会的養護Ⅰ　～こどもの権利擁護と自立支援～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・子どもの養護を担う「社会的養護」、「施設養護」の内容について講義する。
・子どもの「権利擁護」、「自立支援」の内容について講義する。
・児童福祉施設について適切な理解ができるように講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	子どもの社会的養護
第 2 回	日本における社会的養護のしくみ
第 3 回	社会的養護に携わる専門職
第 4 回	家庭支援の理論と実践
第 5 回	家庭的養護の理念と里親制度
第 6 回	乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
第 7 回	児童養護施設の歴史と自立支援
第 8 回	非行のある子どもの自立支援
第 9 回	情緒障がいのある子どもの社会的養護
第 10 回	知的障がいのある子どもの社会的養護
第 11 回	身体障がいのある子どもの社会的養護
第 12 回	児童養護施設における子どもの権利擁護
第 13 回	当事者からみた日本の社会的養護
第 14 回	施設の運営
第 15 回	社会的養護の課題と展望

予習・復習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つようにする。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：社会的養護Ⅰ・Ⅱ
・著 者 名：松本峰雄監修
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2024年　978-4-623-09617-6

社会的養護Ⅰ

社会的養護Ⅱ ～子どもの自立を支援する～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

・社会的養護Ⅰで学んだ内容を基礎にして、実践的な能力を培っていけるように講義する。
・教員自身が福祉施設等で勤務した実務経験に基づき、社会的養護の実際場面の事例課題を提示して、グループワークやディスカッションを指導する。
・施設実習の事前学習として、個別支援計画作成、記録の取り方、自己評価の内容について講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会的養護における子どもの理解
第 2 回	日常的支援
第 3 回	治療的支援
第 4 回	自立支援
第 5 回	施設養護の生活特性および実際１
第 6 回	施設養護の生活特性および実際２
第 7 回	施設養護の生活特性および実際３
第 8 回	施設養護の生活特性および実際４
第 9 回	家庭養護の生活特性と実際
第 10 回	アセスメントと個別支援計画の作成
第 11 回	記録および自己評価
第 12 回	保育の専門性に関わる知識・技術と実践
第 13 回	社会的養護に関わる知識・技術と実践
第 14 回	社会的養護における家庭支援
第 15 回	社会的養護の課題と展望

予 習 ・ 復 習

・予習：日々の子育て関係のニュースに関心を持ち、社会的養護に関する理解を深める。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
・施設養護および家庭養護の実際について理解する。
・社会的養護における計画、記録、自己評価の実際について理解する。
・社会的養護に関わる相談援助の方法、技術について理解する。
・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：社会的養護Ⅰ・Ⅱ
・著 者 名：松本峰雄監修
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2024年　978-4-623-09617-6

保育原理　～保育とは？～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	－	－	必修

授業概要

この授業では保育に関する基礎・基本、また根底を学ぶことができるように講義する。必要な基本的な知識を丸暗記するだけでなく、保育における基本、歴史、今日の課題等を自発的に学び、一人一人の保育に対する考えが深まるように講義を行う。保育士の実務経験に基づき、具体的、実用的な保育の基本を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	保育の方向性と実践の基礎と発達観
第 3 回	保育に関する諸法令
第 4 回	指針、要領にみる保育の原理
第 5 回	養護と保育の一体化
第 6 回	保育実践の基本構造
第 7 回	多様な保育内容とその方法
第 8 回	子育て支援について
第 9 回	西洋と日本の保育
第 10 回	西洋の保育実践の発展過程
第 11 回	日本の保育実践の発展過程
第 12 回	倉橋総三からの学び
第 13 回	保育者の在り方
第 14 回	今後の保育
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：テキストを熟読する

・復習：毎授業で学んだことをまとめておく

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・進歩状況により授業内容が変更する可能性がある。
・テキスト内のワークを行うため、テキスト持参（購入）が必須

到 達 目 標

① 教育の意義及び目的について理解する。
② 保育に関する法令及び制度を理解する。
③ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
④ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
⑤ 保育所現状と課題について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育の基本原則（50%）	日本の保育の現状・課題・歴史等多角的視点で保育の基本原則を説明できる	保育の基本原則について論理的に説明できる	保育の基本原則について説明できる	保育の基本原則について部分的に説明できる	保育の基本原則を説明できない。課題に取り組まない。
保育の現状と課題（30%）	日本の保育の現状・課題・歴史等多角的視点で保育の在り方について考察できる	保育の現状と課題に対し強い関心を持ち具体例を用いて考察できる	保育の現状と課題に対し関心を持ち考察できる	保育の現状と課題に対し関心を持ち部分的に考察できる	保育の現状と課題に対し関心を示さない。課題に取り組まない
保育の課題解決へのプロセス（20%）	諸外国や日本の保育に対して歴史や思想の観点から保育の具体的なプロセスを論理的に説明できる	具体例を用いて保育の課題を発見し解決策とプロセスを説明できる	具体例を用いて保育の課題を発見し解決策とプロセスを構想できる	具体例を用いて保育の課題を発見し解決策とプロセスを部分的に構想できる	具体例を用いて保育の課題を発見できない。課題に取り組まない

評価方法

学期末試験（レポート）50%　授業内課題 30%　授業態度 20%

テキスト

・教科書名：「改訂 2 版　Work で学ぶ保育原理」
・著 者 名：佐伯一弥・鈴木彬子・高橋優子・金瑛珠
・出版社名：わかば社
・出 版 年（ISBN）：978-4-907270-47-6

教育実習指導(事前事後)(幼稚園)

～幼稚園での実習を有意義なものとするために～

小山内，木谷，齊藤，川喜田
佐々木，宮澤，一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年･2年	後期･前期(通年)	1	選択	必修	－	－

授 業 概 要

1年次後期の「教育実習Ⅰ（幼稚園)」と2年次前期の「教育実習Ⅱ（幼稚園)」のそれぞれについて、実習の事前と事後に指導を行う。事前指導では、実習活動中のルールやマナーや実習日誌を書く目的と書き方、指導案の書き方を講義し、部分実習および責任実習に向けた活動への探究を促す。事後指導では、実習活動の振り返りを行い、学生自身が自分の課題を確認し幼児教育者としての資質を培う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	【教育実習Ⅰ】事前指導① 教育実習の概要と本授業（事前事後指導）の流れ、「実習個人調書」の作成
第 2 回	【教育実習Ⅰ】事前指導② 実習生としてのマナーと心構え、実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 3 回	【教育実習Ⅰ】事前指導③ 「実習の課題」の作成、実習日誌の意義と幼稚園の一日の流れ
第 4 回	【教育実習Ⅰ】事前指導④ 実習日誌の書き方（場面の記録や環境構成図を含む）
第 5 回	【教育実習Ⅰ】事前指導⑤ 部分実習に向けた準備、指導案の基本的な書式
第 6 回	【教育実習Ⅰ】事前指導⑥ 実習直前：実習期間中の連絡方法や日誌の提出と受け取りの理解、巡回指導の説明
第 7 回	【教育実習Ⅰ】事後指導 「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題の省察
第 8 回	【教育実習Ⅱ】事前指導① 教育実習Ⅱのねらい、実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	【教育実習Ⅱ】事前指導② 責任実習に向けた準備
第 10 回	【教育実習Ⅱ】事前指導③ 責任実習の日の日誌の書き方について
第 11 回	【教育実習Ⅱ】事前指導④ 指導案の作成❶　指導案作成の意義や目的を理解し、書式を確認する
第 12 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑤ 指導案の作成❷　作成した指導案を修正しながら、指導案の書き方を理解し身につける
第 13 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑥ 指導案の作成❸　保育活動の展開で必要な工夫や配慮を考察し含めて、指導案を完成させる
第 14 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑦ 実習直前：実習期間中の連絡方法や日誌の提出と受け取りの再確認、巡回指導の説明
第 15 回	【教育実習Ⅱ】事後指導 「教育実習Ⅱ」の振り返りによる自己課題の省察

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業内容を確認し、教場に持参する物や提出物を整える。
・復習：授業時に提示された課題を完成させ、期日内に提出できるように準備する。

履修上の注意

・遅刻は授業開始から 30 分までとし、必ず指示された教員宛に事前に E メールで連絡を入れること。
・ⅠとⅡ各々の実習指導の欠席が 2 割を超えた場合、事前指導段階であれば実習を実施できない。事後指導を含む場合は、実習活動を終えていたとしても本授業の単位は認められない。
・やむを得ず欠席する場合も必ず事前に連絡を入れ、証明書を添付した欠席届を提出する。
・授業時には毎回『実習のてびき』と『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』を持参する。
・日誌や指導案を作成する授業回には、定規等の必要な筆記具を持参する。

到 達 目 標

【教育実習Ⅰ】
・実習生として、マナーを守り意欲的に初めての実習に取り組むために、実習の課題を明確にする。
・３歳から小学校就学始期までの子どもの発達を理解し、幼児の前に立つための準備をする。
・一日の保育の流れや展開を理解し、日誌を時系列で記録できるようにする。
・実習の手続きや提出部の期日を守り、自主的で意欲的に学ぶ姿勢を身につける。
・終了後に実習活動を振り返り、教育実習Ⅱに向けて自身の課題を明確に理解する。
【教育実習Ⅱ】
・実習園の特色や教育・保育方針を理解した上で、自分の課題を明確にして実習に臨む。
・保育者による子どもへの援助の意図や配慮を感じ取り、それを「気づき」として日誌に書けるようにする。
・〈導入・展開・まとめ〉の流れ、子どもの動きを予測した配慮や留意点を含めた指導案を作成する。
・実習の手続きや提出物の期日を守り、見通しをもって計画的に実習への準備を進める。
・終了後に実習活動を振り返り、保育者としての自身の課題を明確に理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習活動への理解と事前準備への取り組み姿勢（40%）	実習の流れを完全に理解し、実習に向けて主体的・積極的に取り組んでいる	実習の流れを理解し、授業内の指示を守り適切に準備を進めている	実習活動への理解にやや不安があり、教員の助言を受けつつ準備を行う	実習活動への理解が不足しており、準備に教員の直接的な援助が必要となる	実習を行う上で必要な理解がなく、準備を進めることが困難である
幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務への理解（20%）	幼児教育の意義や幼稚園の役割、教諭の職務について完全に理解している	幼児教育の意義や幼稚園の役割、教諭の職務についてほぼ理解している	幼児教育や幼稚園実習への意欲はあるが、理解面で不十分な部分がある	幼児教育や幼稚園実習への意欲は乏しいが、学ぼうとする姿勢はある	幼児教育や幼稚園実習への関心が薄く、学習態度にも問題がある
実習日誌の記入に対する理解（20%）	実習日誌に意義を十分に理解し、各項目に模範的な記述ができる	実習日誌の意義を理解し、過不足なく記述することができる	日誌に書く内容の基本的な理解はあるが、実際の記述は不十分である	日誌への理解が不十分であるため、記述内容が薄く気づきが含まれない	日誌への理解が不足しているため、日誌を書くことが困難である
指導案の作成に対する理解（20%）	指導案の意義を十分に理解し、模範的な立案ができる	指導案の意義を理解し、過不足のない立案ができる	指導案の立案に必要な基本的な理解はあるが、記述に不十分な部分がある	指導案への理解が不十分であるため、立案に教員の直接的な指導を必要とする	指導案への理解が不足しているため、立案することが困難である

評価方法

授業態度、課題等の提出物、授業理解を測る確認テストの結果等により、総合的に評価を行う

テキスト

・川口短期大学こども学科『実習のてびき』
・文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成 30 年)』フレーベル館　ISBN: 978-4577814475
・小櫃智子（編)『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社、
2023 年 ISBN: 978-4907270438

教育実習Ⅰ（幼稚園）

～幼児との関わりや教育活動の実践を通して、幼稚園教諭の職務と幼稚園の役割を学ぶ～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	必修	－	－

授業概要

実際に幼稚園に赴き、教育活動や幼児の園生活に関わりながら、幼児教育の意義と幼児の発達への理解を深める。幼稚園教諭の具体的な職務内容や幼稚園の社会的役割について学ぶことを目的とする。

授業計画

【実習期間】

2026年11月9日～11月20日（2週間）

【実習内容】

・観察実習や参加実習を通して、保育者に準ずる立場で幼児教育活動を実践的に学ぶ。
・参加し観察した内容や気づきや考察した内容を、実習日誌に記録する。
・実習園の指導の下、部分実習を通じて「幼児の前に立つ」ことを体験し省察する。

予習・復習

・予習

実習先事前訪問での学びに基づいて、実習園の教育方針や実習内容の概要を理解する。
教育実習事前指導の授業に出席し、実習活動のねらいを理解し自身の実習の課題を定める。
実習中は翌日の実習課題を想定して、教材準備等に努める。

・復習

実習期間中は毎日、実習日誌の記述を通して、その日に学んだことや気づいたことをまとめ振り返る。
実習期間中の反省会や実習日誌への指導から、自身の課題を理解し必要な修正等を行う。

履修上の注意

・教育実習Ⅰを実施するには、次の①～⑥全ての条件を満たすことが必要である。
① 本実習の派遣条件科目の単位を修得している。（『履修のてびき』参照）
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に規定数以上出席し、全ての授業内容を学んでいる。
③ 全ての手続きと書類提出を、所定の期日内に済ませている。
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の全ての到達目標に達している。
⑤ 心身の健康に問題が無く、自身の体調管理を実習前より続けている。
⑥「誓約書」の内容を理解し、実習開始前に署名したものを本学に提出している。
・教育実習の日程を守り、実習園の指導に従い実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めない。但し、欠席に考慮すべき理由がある場合は、実習園へ理由を示す証明書類を提出して、実習期間の延長をお願いすることもある。
・実習日誌は必ず自分で記述し、実習園が指示する日時に手渡しで提出する。日誌が戻されたら、指導内容を確認し必要な修正や書き直し等を行う。

到達目標

(1) 実習生の姿勢と態度
・実習生としてのマナーを守り、実習活動に意欲的に取り組む。
・実習先でも礼儀正しく、謙虚な姿勢で指導を受ける。
・自分から進んで質問をし、実践を通して学びを深める。

(2) 知識と技能
・実習前に十分に準備をして、「幼児の前に立つ」経験をする。
・３歳から小学校就学始期までの幼児の発達を理解する。

(3) 実習日誌
・各年齢の発達の特徴や保育活動の流れやつながりを理解し、時系列で記録できる。
・幼児に対する教諭の働きかけや配慮を具体的に記録できる。
・幼児の実際の姿を観察し、それを「場面の記録」等に具体的かつ詳細に記述できる。
・実習で感じた気づきを日誌に記述することができる。

(4) 手続きや提出物
・指示に従い、期日を守って提出する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学生としての実習時の態度（30%）	実習の意義を十分に理解し、模範的な実習態度で取り組む	実習の意義を理解し、指導や助言を受け入れ積極的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みは不十分である	自己都合の欠席や遅刻をし、実習への意欲が見られない
幼稚園教諭及び幼稚園への理解（30%）	幼児教育の理念や保育者の職務や役割を十分に理解し、模範的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務を理解し、積極的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務について学ぼうとする意欲がある	幼児教育の理念や保育者の職務についての学びが不十分である	幼児教育の理念や保育者の役割に対する理解が足りない
幼児への理解（20%）	年齢による発達の違いを十分に理解し、それに即した模範的な関わりができる	年齢による発達の違いを理解し、それを踏まえた関わりを意識している	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている	観察が不足しているため、年齢にあった関わりができない	保育者としての視座がなく、単に子どもと遊ぶのに止まる
教育活動の実践力（10%）	主体的・積極的に子どもと関わり、模範的な部分実習ができる	子どもの前に立つ意欲を持ち、さまざまな活動に取り組む	幼児の前に立つように決められたり求められたりすれば、行う	活動をする際、子どもへの配慮が不十分である	子どもの前に立つことができず、求められても遠慮する姿が見られる
実習時の観察力と記録力（10%）	教育活動を時系列で具体的に記録し、多くの気づきもあり模範的な記述である	時系列に抜けなく記録をし、環境構成図や気づきも記載されている	時系列に教育活動を記録しているが、具体性に乏しく気づきも少ない	指導や助言を受けて改善を心がけているが、その内容は不十分である	毎日の日誌提出が滞っていたり、指導や助言を受け入れなかったりする

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度、幼稚園理解、幼児理解）と、実習日誌の記載内容への評価の2点で行う。

実習園から受け取った「実習日誌」を所定の期日までに教員・保育士養成支援センターへ提出していることを前提とする。

テキスト

指定なし

教育実習Ⅱ(幼稚園)

～教育活動に必要な知識や能力・技術と、幼稚園教諭の視座を獲得する～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	必修	－	－

授業概要

教育実習Ⅰ（幼稚園）での経験を礎に、観察・参加実習に加えて自身で作成した指導案に基づく保育活動を実践する。幼児教育の課程はもとより、実習先の幼稚園の教育理念を把握し、子どもの「個」と「集団」の双方の関わり方について理解する。また、実際の子どもの姿を踏まえて指導案を作成し、それに基づく「責任実習」を通じて、深く幼稚園教諭の職務を理解する。

授業計画

【実習期間】

2026年6月8日～11月19日（2週間）

【実習内容】

・観察実習や参加実習を通して、保育者に準ずる立場で幼児教育活動を実践的に学ぶ。
・参加・観察および実践した内容や気づきや考察した内容を、実習日誌に記録する。
・実習園の指導の下、指導案を完成させ「部分実習」「責任実習」を実践する。

予習・復習

・予習

実習先事前訪問での学びに基づいて、ピアノの伴奏曲の練習や部分実習の教材等を作成する。
教育実習事前指導の授業に出席し、実習活動のねらいを理解し自身の実習の課題を定める。
実習中は翌日の実習課題を想定して、指導案の修正や部分実習教材の準備や練習に努める。

・復習

実習期間中は毎日、実習日誌の記述を通して、その日に学んだことや気づいたことをまとめ振り返る。
実習期間中の反省会や実習日誌への指導から、自身の課題を理解し必要な修正等を行う。

履修上の注意

・教育実習Ⅱを実施するには、次の①～⑥全ての条件を満たすことが必要である。
①「教育実習Ⅰ」を含む本実習の派遣条件科目の単位を修得している。(『履修のてびき』参照)
②「教育実習指導（事前事後）(幼稚園)」の授業に規定数以上出席し、全ての授業内容を学んでいる。
③ 全ての手続きと書類提出を、所定の期日内に済ませている。
④「教育実習指導（事前事後）(幼稚園)」の全ての到達目標に達している。
⑤ 心身の健康に問題が無く、自身の体調管理を実習前より続けている。
⑥「誓約書」の内容を理解し、実習開始前に署名したものを本学に提出している。
・教育実習の日程を守り、実習園の指導に従い実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めない。但し、欠席に考慮すべき理由がある場合は、実習園へ理由を示す証明書類を提出して、実習期間の延長をお願いすることもある。
・実習日誌は必ず自分で記述し、実習園が指示する日時に手渡しで提出する。日誌が戻されたら、指導内容を確認し必要な修正や書き直し等を行う。

到達目標

(1) 実習生の姿勢と態度
・「今日の課題」を省察した上で「翌日の課題」を設定する等、学びの積み上げを意識する。
・子どもとは「個」と「集団」を念頭に積極的に関わり、学びを深める。
(2) 知識と技能
・保育における「PDCAサイクル」を理解する。
・部分実習や責任実習を通じて保育技術を磨き、さらなる向上を目指す意欲を持つ。
(3) 実習日誌
・教諭の「保育上の意図」を感じ取り、それを「学び」や「気づき」として記述することができる。
・幼児との関わりを詳細に読みやすく記録し、そこから省察できる。
(4) 指導案
・子どもの姿を想定して工夫や配慮を考え、「導入・展開・まとめ」を一連の流れとして立案できる。
(5) 手続きや提出物
・指示に従い、計画的に作成を進め、期日を守って提出する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学生としての実習時の態度（30%）	実習の意義を十分に理解し、模範的な実習態度で取り組む	実習の意義を理解し、指導や助言を受け入れ積極的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みは不十分である	自己都合の欠席や遅刻をし、実習への意欲が見られない
幼児への理解（30%）	年齢による発達の違いを十分に理解し、それに即した模範的な関わりができる	年齢による発達の違いを理解し、それを踏まえた関わりを意識している	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている	観察が不足しているため、年齢にあった関わりができない	保育者としての視座がなく、単に子どもと遊ぶのに止まる
実習時の観察力と記録力（20%）	教育活動を時系列で具体的に記録し、多くの気づきもあり模範的な記述である	時系列に抜けなく記録をし、環境構成図や気づきも記載されている	時系列に教育活動を記録しているが、具体性に乏しく気づきも少ない	指導や助言を受けて改善を心がけているが、その内容は不十分である	毎日の日誌提出が滞っていたり、指導や助言を受け入れなかったりする
幼稚園教諭及び幼稚園への理解（10%）	幼児教育の理念や保育者の職務や役割を十分に理解し、模範的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務を理解し、積極的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務について学ぼうとする意欲がある	幼児教育の理念や保育者の職務についての学びが不十分である	幼児教育の理念や保育者の役割に対する理解が足りない
責任実習の内容（10%）	指導案作成を含む事前準備が万全で、当日も責任をもって子どもの姿に配慮しつつ臨機応変に教育活動を展開する	指導案作成を含む事前準備が十分であり、当日も想定される子どもの姿を踏まえた教育活動を展開する	指導案を作成して当日に教育活動を展開するが、子どもへの配慮等の課題が見られる	指導案を作成して教育活動を展開しているが、起案に難があったり、準備不足であったり、柔軟性に課題があったりする	指導案を含む準備が不十分で、大幅な時間超過や中途で活動を終えたりと、教育活動の展開に大きな課題がある

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度、幼稚園理解、幼児理解）と、実習日誌の記載内容への評価の2点で行う。

実習園から受け取った「実習日誌」を所定の期日までに教員・保育士養成支援センターへ提出していることを前提とする。

テキスト

指定なし

教育実習指導(事前事後)(小学校)

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行うために～

長沼, 西, 木谷, 藤田, 一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年･2年	後期･前期(通年)	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、事前指導において、各自が小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。また、授業展開技術の理解と実践の向上を目指して指導する。
・事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、小学校教諭としての資質・能力を培うために自らの課題を明確にすることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	小学校について―文部科学省・教育委員会、学校現場、１日の流れ 教育実習の心得（1）―服務の厳正、個人情報や SNS の扱い
第 2 回	教育実習までの準備―教育実習について、事前オリエンテーション、子どもたちの発達 児童と学校生活―学校の現状、諸問題と課題
第 3 回	授業展開技術の理解（1）―学習指導要領、指導計画、教材研究と学習指導案
第 4 回	授業展開技術の理解（2）―学習指導案の作成
第 5 回	教育実習の心得（2）―実習までの心構え、個人情報や SNS の扱い 授業展開技術の理解（3）―教材・教具の作成
第 6 回	授業展開技術の実践（1）―授業の実施
第 7 回	授業展開技術の実践（2）―授業の実施
第 8 回	授業展開技術の実践（3）―授業の実施
第 9 回	教育実習の実際―現職の小学校教諭から実際の様子を学ぶ
第 10 回	実習日誌―実習日誌の書き方、実習日誌の例
第 11 回	実習中の心得（3）―先生方や学級への関わり、服務の厳正、個人情報や SNS の扱い
第 12 回	授業展開技術の実践（4）―授業の実施
第 13 回	授業展開技術の実践（5）―授業の実施
第 14 回	実習後の学習―実習終了後の挨拶、礼状の書き方、学びの整理と反省
第 15 回	教育実習のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読むこと。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認すること。

履修上の注意

・事前指導の欠席が 2 割を超えた場合、教育実習に参加することはできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。
・指導案作成や模擬授業の実施、また教育実習に持参するために、個人用パソコンを準備すること。

到 達 目 標

＜事前指導＞
・小学校教育への理解を深め、教育実習の意義を理解することができる。
・教育実習の準備として、実習中の心得や実習日誌の書き方を理解することができる。
・授業展開技術を理解し、実践することができる。
＜事後指導＞
・小学校教諭としての資質・能力を培うために自らの課題を明確にすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
＜事前指導＞教育実習の理解と準備に対する取組（20%）	実習の流れを理解し、主体的・積極的に準備に取り組んでいる。	実習の流れを理解し、教員の見守りのもと準備に取り組んでいる。	実習の流れの理解にやや不安があり、教員の助言を受け、準備に取り組んでいる。	実習の流れの理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組んでいる。	実習の流れを理解することができず、準備することが難しい。
＜事前指導＞授業展開技術の理解（30%）	各教科の特質を理解したうえで綿密に教材研究が行われ、その内容が学習指導案に適切に反映されている。	各教科の特質を理解したうえで教材研究が行われ、その内容が学習指導案に反映されている。	各教科の特質の理解にやや不安があるものの、学習指導案の基本的な書き方を理解している。	学習指導案の書き方への理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組む。	学習指導案の書き方を理解することができず、作成することが難しい。
＜事前指導＞授業展開技術の実践（30%）	子どもの実態に応じ、子どもの学びを促進するさまざまな工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られるが、指示の出し方や板書にやや課題がある。	子どもの学びを促進する工夫が必要であり、指示の出し方や板書にも課題がある。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
＜事後指導＞実習日誌の記録（20%）	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことや考えたことの記載を十分に行おうとしている。	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことや考えたことの記載を行おうとしている。	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことを記載しているが、具体性に乏しい。	指導や助言を受けて日誌を提出しようとするが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

・実習課題および授業態度（20%）、学習指導案の作成（30%）、模擬授業の様子（30%）、実習日誌の記録（20%）を通して総合的に判断する。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

教育実習Ⅰ（小学校）

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行う～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法について指導する。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して指導する。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について指導する。
・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、教育実習の意義について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 10 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 15 回	教育実習の振り返り。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

・実習は全出席するものであり、遅刻・早退のないようにすること。
・社会通念から逸脱した行為（服務規程違反や個人情報流出等）があれば、実習の中止となる。
・<u>個人用パソコンを準備すること。</u>

到 達 目 標

・教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
・教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（20%）	児童に対する教育活動を、積極的・主体的に行う。	児童に対する教育活動を、意欲的に行う。	児童の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる。	教育活動において児童に対する配慮が不十分である。	児童の前にたって教育活動を行うことができない。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行う。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

教育実習Ⅱ(小学校)

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行う～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法について指導する。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して指導する。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について指導する。
・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、教育実習の意義について詳しく指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 10 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。研究授業。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。お別れ会など。
第 15 回	教育実習の振り返り。教師になるということについて再認識。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

・実習は全出席するものであり、遅刻・早退のないようにすること。
・社会通念から逸脱した行為（服務規程違反や個人情報流出等）があれば、実習の中止となる。
・<u>個人用パソコンを準備すること。</u>

到 達 目 標

・教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
・教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開する。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し教育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴う。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行う。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

保育実習指導Ⅰ（事前事後）　～有意義な実習を行うために～

岩崎, 小山内, 宮澤, 藤田, 川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前事後指導を行う。また、保育士の実務経験に基づき実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】保育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習生としてのマナーと心構え
第 3 回	保育所の生活と社会的役割
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌の書き方①記録の意義、記入上の諸注意
第 6 回	実習日誌の書き方②記録の取り方、記入の仕方
第 7 回	実習日誌の書き方③記録の取り方、記入の実際（ワーク）
第 8 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	実習目標と課題の立て方
第 10 回	指導案の作成①指導案を作成する意味と指導案の書き方
第 11 回	指導案の作成②実際に指導案を作成する
第 12 回	実習直前オリエンテーション
第 13 回	【事後指導】実習成果発表会
第 14 回	保育実習Ⅰでの反省と振り返り
第 15 回	保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない（講義要項 p.1 および p.16 参照） ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

到 達 目 標

実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む ・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む ・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む ・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる ・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：「改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド」
・著 者 名：小櫃智子 田中君枝・小山朝子・遠藤純子
・出版社名：わかば社
・出 版 年（ISBN）：978-4-907270-43-8

保育実習指導Ⅱ（事前事後）　～有意義な施設実習とするために～

小山内，齊藤
佐藤，西内

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

実習を円滑に進め学習効果をあげるために，実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。具体的には，実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮，プライバシーの保護と守秘義務，実習日誌の書き方，実習施設の特色等について指導を行う。また，現場職員を講師に招き，施設理解を深められるようにする。実習終了後には，実習先の講評や実習日誌，レポートや自己評価の作成等を通して，実習のまとめと振り返りを行い，保育士としての目標，自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	【事前指導】	保育実習Ⅱ（施設）の概要と意義，目的／実習事前事後指導の流れ
第 2 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(1) 児童養護施設
第 3 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(2) 福祉型障害児入所施設
第 4 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(3) 医療型障害児入所施設
第 5 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(4) 障害者入所施設
第 6 回		実習に向けた心構えと施設実習の実際（先輩の体験談を聞く※）
第 7 回		支援の技法を学ぶ（障害児・者を対象としたレクリエーション活動や自立活動）
第 8 回		実習施設について知る／実習日誌の書き方（1）実習施設の概要
第 9 回		施設の生活と支援の実際（1）（現場職員の方の話を聞く※）
第 10 回		実習日誌の書き方（2）施設での日々の記録を書くために
第 11 回		施設の生活と支援の実際（2）（現場職員の方の話を聞く※）
第 12 回		実習の課題・毎日の課題の意義と立て方 実習日誌の書き方（3）施設での場面記録を書くために
第 13 回		実習における諸注意と事前の自己チェック
第 14 回	【事後指導】	実習の振り返り・保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題（レポート作成）
第 15 回		

※の回は，外部講師を招聘予定。講師の都合等により，回数・日程は変更の可能性がある。

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し，持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ，期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には，実習における自己の学びを振り返り，まとめる。

履修上の注意

・事前指導（13 回）の欠席が 2 割を超えた場合，実習はできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

① 人権を理解し尊重する態度を身につける。
② 施設の役割，社会的な位置づけや施設の現状（生活，職員の役割）を理解する。
③ 観察することの意味を理解する。
④ 記録の取り方・記入の仕方を理解する。
⑤ 期日を守り，提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
⑥ 保育実習Ⅱを振り返り，保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度・実習に向けた準備（40%）	授業内容を十分理解し，授業内容を越えた自主的な学習や準備ができる。	授業内容を十分理解し，実習に向けた準備ができている。	授業内容を理解できていない部分があり，実習に向けた準備が不十分である。	授業内容をほとんど理解できておらず，実習に向けた準備もほとんどできていない。	授業内容を理解できておらず，実習に向けた準備も全くできていない。
課題解決及び発表能力（40%）	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また，関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	資料を調べたり参照したりすることができず，提示された課題と内容にずれがある，または，課題に不足がある。	資料を調べたり参照したりすることができず，提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
授業に対する積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み，自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが，論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが，論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度，課題の内容とその提出状況等により，総合的に評価する。

テキスト

・守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）

保育実習Ⅰ(保育所) ～保育所の機能・子ども理解に向けて～　こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

授業概要

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する。

授業計画

(1) 実習期間
2027年2月・3月の間の12日間以上、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる）。
(2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

予習・復習

予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める。
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。 実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・保育実習に関するマナーを学ぶ。
・安全に配慮できる。
・子どもの生活や遊びにおける関心を高める。

2. 知識および技能
・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・子どもの発達過程を理解する。

3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ。

4. 指導案
・指導案とは何かを知る。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を 要する
実習生としての態度 （40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能 （50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌 （10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる

テキスト

特になし

保育実習Ⅱ(施設)　～施設保育士の役割と子ども・利用者援助理解について～	こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

授業計画

(1) 実習期間実習時間
　2026年2月・3月の間に、12日間実習を行う（実習施設により日程が異なる)。
(2) 実習内容
　観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある)。

予習・復習

・予習　① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
　　② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
　　③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

（1）保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の授業に原則全て出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の到達目標に達していること。
（2）保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・人権を理解し尊重する態度を身につける。
・施設実習を通し自己の成長を目指す。
・観察することの意味を理解して実践する。
2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。
3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。
4. 指導案
・部分実習の具体例を学ぶ。
5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習指導Ⅲ･Ⅳ(事前事後)
～実習の集大成として～

木谷, 佐藤, 岩﨑
宮澤, 西内, 藤田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	選択	−	−	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

保育実習Ⅲ（保育所）･Ⅳ（施設）の意義，目的，方法などを学ぶとともに，保育実習Ⅰ（保育所）･Ⅱ（施設）において明確になった課題について，さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また，子どもや利用者，保育士の役割と職務内容について理解を深め，保育士としての専門性や実践的知識を高めるため，責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では，実習先の講評や実習日誌，自己評価，実習反省会等を通して，実習のまとめと振り返りを行い，保育士としての新たな目標，自己の課題が明確になるよう指導する。

授業は，保育所での勤務経験を反映させて実施する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
	保育実習Ⅲ（保育所）	保育実習Ⅳ（施設）
	【事前指導】	
第 1 回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第 2 回	保育実習Ⅲ（保育所）の目的と意義	保育実習Ⅳ（施設）の目的と意義
第 3 回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌とその活用（1）	実習日誌とその活用（1）
第 6 回	実習日誌とその活用（2）	実習日誌とその活用（2）
第 7 回	指導案の作成（1）	施設の役割と現状
第 8 回	指導案の作成（2）	指導案の作成
第 9 回	模擬保育（1）	模擬保育（1）
第 10 回	模擬保育（2）	模擬保育（2）
第 11 回	模擬保育（3）	施設の理解を深める（施設見学①）
第 12 回	模擬保育（4）	施設の理解を深める（施設見学②）
第 13 回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第 14 回	実習の総括と自己評価（レポート作成）	実習の総括と自己評価（レポート作成）
第 15 回		

予 習 ・ 復 習

（1）予習　①次回の授業内容を確認し，持ち物や提出物を整える。
②実習先事前訪問にもとづき，自己の課題を明確にして実習に臨む。

（2）復習　①課題を完成させ，期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
②実習終了後には，実習における自己の学びを振り返り，まとめる。

履修上の注意

・事前指導の欠席が 2 割を超えた場合，実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。
・保育実習指導Ⅳでは，学外授業を行う予定である。

到 達 目 標

・園や施設の方針を理解したうえで，保育者の関わりを基に適切に行動できるようになる。
・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解する。
・記録のとり方・記入の仕方を理解する。
・指導案を書く意味を理解し，指導案を保育実習につなげることができる。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り，今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し，授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成し発表することができる。また，関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成し発表することができる。	提示された課題と内容にずれがある，または，課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが，論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが，論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度，課題の内容とその提出状況等により，総合的に評価する。

テキスト

・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN：457781448X）
・Ⅲ：小櫃智子他編著『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270437）
・Ⅳ：守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）

保育実習Ⅲ(保育所)　～保育所理解および保育理解を深める～

こども学科教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

保育実習Ⅰ(保育所)の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する

授業計画

（1） 実習期間と実習時間
2026 年 8 月･9 月の間の 12 日間以上、90 時間以上の実習を行う（実習園によって日程が異なります)。
(2) 実習内容
実習園の指導のもと参加実習、指導実習（部分実習および責任実習）を行い、省察する。

予習・復習

・復習：(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④保育実習指導Ⅲ（事前事後）の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる
・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる
2. 知識および技能
・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる
・生活・遊びを促すための援助ができる
3. 実習日誌
・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。
4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる
・全日実習指導案の作成から実践につなげる
5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
（　%）					
（　%）					

評価方法

実習園による評価（実習態度、保育所理解、幼児理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習Ⅳ(施設)　～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～	こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授 業 計 画

(1) 実習期間実習時間
　2025年8月・9月の間に、12日間の実習を行う（実習施設により日程は異なります)。
(2) 実習内容
　観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

予 習 ・ 復 習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
　② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
　③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④保育実習指導Ⅳ（事前事後）の到達目標に達していること。
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる。
・保育者として学んだことを主体的に果たすことができる。

2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。

3. 実習日誌
・子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる。
・「個」と「集団」の姿を記録できる。
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。

4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育・教職実践演習（幼・小）

～これまでの学びをふりかえる～

長沼・西・佐藤・西内
藤田・一色・川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から２年次前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。免許・資格取得関連項目について、何をどう学んだか、学修評価表（かわたんシート）を通じて確認し、保育所をはじめとする各児童福祉施設、幼稚園および小学校について、分野ごとに、子ども理解、クラス経営、内容の指導法等に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	全体講義①外部講師の講義（先輩から学ぶ保育・教育の現場）
第 3 回	クラス別演習①
第 4 回	全体講義②外部講師の講義（保育所で働くということ）
第 5 回	クラス別演習②
第 6 回	全体講義③外部講師の講義（児童福祉施設で働くということ）
第 7 回	クラス別演習③
第 8 回	全体講義④外部講師の講義（幼稚園で働くということ）
第 9 回	クラス別演習④
第 10 回	全体講義⑤外部講師の講義（小学校で働くということ）
第 11 回	クラス別演習⑤
第 12 回	全体講義⑥ふりかえり
第 13 回	クラス別演習⑥
第 14 回	全体報告会
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：日頃から、情報メディアセンター（図書館）へ赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。

・復習：授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

履修上の注意

① 教育実習Ⅰ（幼稚園）、教育実習Ⅱ（幼稚園）・（小学校）を履修済みであること。
② 保育実習Ⅰ・Ⅲ（保育所）、保育実習Ⅱ・Ⅳ（施設）を履修済みであること。
③ ①もしくは②の条件（片方もしくは両方）を満たしていること。

その他
原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、必ず届け出ること。
クラス別演習は、２０～３０名程度のクラスを編制し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

到 達 目 標

これまで大学で学んできた授業内容、および実習での活動について、学修評価表（かわたんシート） を通して全体の関係性を理解することができる。
また、自己の学修と他者の学修とをグループディスカッション等を通して比較し、教育・保育・福祉の多様性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（40%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（10%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

学期末レポート 70%
授業内レポート 20%
受講態度 10%

テキスト

教科書は使用しない。